

【別紙】「他市町へ情報共有したい取組」市町ヒアリングシートより ※保健所（支所）が他市町へ情報共有したい取組です。

	市町名	取組内容	分野	①	②	③	④	⑤
西部保健所	大竹市	・ <u>子どもや高齢者の居場所づくりを目的とした「ブラモデルづくりクラブ」「鉄ちゃんの会」等の趣味をきっかけとした企画</u> や、生協ひろしまと協働した <u>男性向けの料理教室「THE漢の料理教室」</u> を実施し、介護予防と地域づくりを一体的に行い、地域で暮らす高齢者を住民自らが支える関係づくりを進めている。 ・生活支援コーディネーターによって、通いの居場所一覧を作成し、地域資源情報の見える化を行っている。	住 護 ① ま 予 保 い 防 健 ・ / ・ 生 ③ 介	●		●		
	廿日市市	・ ACP（人生会議）について、市内のイベント・集会所等において、 <u>住民向けに「もしバナゲーム」「人生100年これからゲーム」を使用して普及啓発に取り組んでいる。</u> ・認知症の本人が意見を言える場、やりたいことが出来る場をつくることを目的にR5年度に認知症の本人ミーティング「すずらの会」を立ち上げ、R7年度も活動を継続している。 ・佐伯地域において、アップサイクルや地元野菜の販売等を通じて <u>地域づくりに取り組む民間の企業（ナガスタ）に地域福祉拠点運営事業を委託し、相談対応や居場所づくりや高齢者等の見守り、認知症カフェ、一人暮らし高齢者の食事会等を実施</u> している。 ・宮園地区において、 <u>免許返納後の移動に係る課題について、SCと住民が協働し、既存の交通機関（バス）・購入した物の配達サービスの体験会を実施</u> した。	域 い ② 包 ・ 医 括 生 療 ケ 活 ・ ア 支 介 に 援 護 お 等 / け / ③ る ④ 住 地 地 ま		●	●	●	
西部保健所 広島支所	安芸高田市	・社会福祉協議会による <u>6 圏域毎の「地域福祉会議」</u> は、各圏域の地域課題を把握し検討等を行い、支え合いのネットワークづくりに取り組んでおり、R8年度に開始する生活支援体制整備事業の生活支援コーディネーターの活動や協議体の基盤となっている。	域 お 括 ④ 会 共 け ケ 地 生 生 り ア 域 社 地 に 包				●	
	府中町	・ <u>府中町版チームオレンジ（BRANKETプロジェクト）</u> の推進について、令和 7 年度に企画するステップアップ講座では、高齢者施設での実習などがあり、具体的に活動できる人材育成に取り組む内容となっている。 ・ <u>府中町まちづくり座談会</u> （第 3 層協議体）：令和 6 年 9 月から、小学校区を単位としたまちづくり座談会を実施し、毎回、高齢者に限らず、子ども、障害者、福祉専門職など20～30人の参加がある。R 6 年度は、課題の抽出を行い、R7年度は 3 回/年開催し、課題に対する目標設定、行動計画、実施と取組を進めていく予定。	ケ 援 ③ ア 等 住 共 に / ま 生 お ④ い 社 け 地 ・ 会 る 域 生 地 包 活 域 括 支			●	●	
	海田町	・平成30年度から町内の 2 団体が運営している <u>「認知症カフェ」の取組を、「チームオレンジ」の活動の一つとして移行</u> した。	域 お 括 ④ 会 共 け ケ 地 生 生 り ア 域 社 地 に 包				●	
	熊野町	・介護保険サービスの利用者と事業者間のハラスメントの課題を中心に、R 7 年度は <u>ケアマネジャーを対象とした「カスハラ研修」を実施</u> する。	い / 介 ① ・ ③ 護 保 支 援 生 住 予 健 等 活 ま 防 ・	●				
	坂町	・済生会広島病院主催の安芸郡のケアマネを中心とした「ケアカフェ」では『 <u>これから手帳</u> 』（赤・白）を活用し、 <u>本人・家族及び支援者も実際に活用して支援を推進するよう研修</u> している。	② 介 医 護 療 ・		●			
	安芸太田町	・重層的支援体制整備事業について、小規模の町では専従の体制が難しいが、現在の安芸太田町保健・医療・福祉統括センターの体制のなかで対応している。 ・ <u>住民主体の助け合い事業について、モデル地区から新たな地区へ展開</u> し、生活支援コーディネーターの活動とともに地域づくりに取り組んでいる。	に 地 活 ③ 共 お 域 支 住 生 け 包 援 ま 社 る 括 等 い 会 地 ケ / ・ 域 ア ④ 生			●	●	
西部保健所 呉支所	呉市	・どの事業も、スピード感をもって、PDCAを回し、改善・強化している。 ・住民の主体性や思いを大事にし、住みやすい呉市の実現に向けて事業展開している。 ・各地域包括支援センターも地域で積極的に活動し、住民との協議やイベント参加も盛ん。	－					
	江田島市	・SCの活動支援を受け、住民組織の会議や通いの場等へ積極的に参加し、ケアマネジャーへヒアリングを行い、SCの活動の説明等行っており、生活支援体制整備事業が強化されている。また、地域ケア会議のアドバイザー派遣や地域包括ケア伴走支援事業を受け、各事業の強化に向けて、総合事業の見直しや検討を行っていくよう、動いている。今後の後期高齢者の増加や生産年齢人口の減少を見据えて活動されている。	① 護 予 健 防 ・ 介	●				
	竹原市	・脳ライフ教室について 令和 6 年度からの事業として、 <u>認知症の発症予防、閉じこもり予防などを目的に、作業療法士などによる脳ライフ教室（運動、知的活動、座学、栄養指導、口腔指導、料理、買い物など）を開始</u> した。教室終了後の前後比較で結果に改善が見られただけでなく、認知症の早期発見・受診勧奨、ケアマネジャーへの連携促進、サービス調整、終了後の地域役割（繋ぎ先）も見据えて支援ができています。	① 保 健 予 防 ・ 介 護	●				
西部東保健所	東広島市	・ <u>ハイブリット型リモートトレーニング（オンラインによる通いの場）</u> の実施 東広島市内在住65歳以上の方を対象に、自宅もしくは市役所会議室で実施（体力測定時は会場で実施）。外出しにくい方や、男性で地域の通いの場には参加されていない方などが参加されており、ネット環境とZoomアプリがあれば、誰でも参加できるようにした。参加者からの評価は好評。運動効果も認められ、指導者の適格な誘導で、参加者同士の交流の場にもなった。 令和 7 年度は、熟年マイスター講座でオンライン通いの場のリーダー養成に取組む予定。また、オンライン通いの場で活用する動画を作成予定。体操の合間にレクを組み込む等、リーダーが役割をもってとりくめるような工夫をする予定。 ・見守りサポーター制度について 民生委員による独居高齢者の定期的（月 1 回）の見守りのほかに、市独自の取組として見守りサポーター制度を行っている。ちょっとした変化や気になることを民生委員に伝え、民生委員から地域共生推進課や地域包括支援センターへ情報提供してもらう取組。令和 7 年 4 月 1 日時点で1,224名。 <u>生協や郵便局、調剤薬局や接骨院、移動販売事業者のような民間企業の方にも見守りサポーターになってもらっており、日頃のやり取りの中での気になる気付きを地域共生推進課に情報提供してもらっている。</u>	① 保 健 ・ 介 護 予 防 生 活 支 援 等 ③ 住 ま い ・	●		●		
	大崎上島町	・移動支援について <u>デマンド型バスについて、住民の要望を受けて、バスの台数とバス停を増やして運行</u> している。また、定期バスは終了予定であったが、要望により、継続して運行している。 民間の福祉タクシーが令和 6 年度から開始。島外の病院受診にも利用可能となっている。高齢者の移動手段の選択肢が広がっているため、SCが町内の移動サービスについてのチラシを作成し、各戸配布し住民へ広く周知している。 ・シルバー人材センターや介護施設でのボランティア、通いの場・サロンのお世話など、高齢者が活動できる場を作り、互助機能を高める地域づくりを行っている。	③ ① 住 保 ま 健 い ・ 等 ・ 介 生 護 活 予 支 防 援 /	●		●		

	市町名	取組内容	分野	①	②	③	④	⑤
東 部 保 健 所	三原市	・高齢者単身世帯、認知症高齢者等の増加に伴い、 医療機関入院や介護保険施設等への入所時の身元保証、葬儀や死後の手続き等の様々な問題に対する市の支援として、「終活安心サポート事業」を開始。 令和7年度は、終末期及び死後における不安の解消と必要な支援の提供を目指す基盤づくりとして、市民を対象とした啓発を行うとともに、三原市版のエンディングノートや啓発用のリーフレット等を作成、配布。三原市社会福祉協議会、高齢者相談センター等による相談や助言、三原市版エンディングノートの作成を支援。 終活情報登録事業として、健康な時に生前契約した葬儀事業者、墓地の場所、エンディングノートの保管場所等を市に登録し、警察等関係機関、本人が指定した親族等からの照会に対し、市が回答する制度を整えた。	会 地 域 包 括 共 ケ 生 ア 社 に				●	
	尾道市	・小中学生にも高齢期の理解や支えあい、介護職の社会的必要性等の理解が深まるよう、令和6年度に 福祉・介護職のイメージ改善理解促進事業として、産学官民によるイベント「かいごとそばに」、小・中学生を対象とした福祉の出前講座等を尾道福祉専門学校と連携して実施。 介護をおしゃれに発信することをコンセプトに、介護福祉士の職業体験「オノザニア」、高齢者も食べやすいデザートをパティスリーと共同開発し、Grand Generation「G.Gカフェ」での提供等を実施。「オノザニア」での職業体験終了後には「未来の介護福祉士認定証」と、「G.Gカフェ」やガチャで利用できる給料（仮想通貨）が貰える等、幼児期から楽しみながら介護について知る機会となるイベントとなった。 ・支え合い上手な地域づくり（生活支援体制整備事業）として、各地域で見守り活動や移動支援等の活動が行われている。御調地域の「みつぎいきいきの会」では、市が運行する デマンド型乗り合いタクシー（みつぎ乗り合いタクシー）の利用促進等に関する話し合いを実施 （市高齢者福祉課、地域公共交通担当部署も参加）。 市は、この話し合いを踏まえて運行経路や乗降場所等を変更。 ふれあいサロンや健康講座の開始時間をタクシーの到着時間に合わせて設定。シルバーリハビリ体操会場となっている小売店舗では、デマンド型乗り合いタクシーを利用してシルバーリハビリ体操に参加した場合の買い物割引きを実施。利便性が向上し、利用者数が増加した。 ・令和6年度から重層的支援体制整備事業を実施し、 「おのまる会議（重層的支援会議）」等を開催し、分野を横断したネットワークを構築 している。複雑化・複合化した支援ニーズに対して、属性を問わず分野横断的な支援に取り組んでいる。また、 日常生活圏域毎に情報交換や研修等を行う「研修交流会」、「まるごと相談会」等を開催 するとともに、そこで寄せられた課題について、多機関協働事業で抽出・分析し、課題解決に向けた検討を行っている。	① 地 域 包 括 ケ ア に お け る 地 域 共 生 生 活 支 援 等 / ④	●		●	●	
	世羅町	・ 「新しい認知症観」を盛り込んだガイドブックを全戸配布 するとともに、サロンからの依頼に応じてガイドブックを活用した啓発を行っている他、認知症サポーター養成講座等を幅広い対象に実施し、町内全域での普及啓発に取り組んでいる。今年度、 小売業のイートインスペースを活用し、利用者と従業員を対象とした認知症サポーター養成講座と相談会を開催予定。 ・生活支援体制整備事業における第2層協議体は13地区中8地区で設置が進んでいる。 第2層生活支援コーディネーターは地域住民が担い、 一人暮らし高齢者等の自宅訪問やサロン等の集まりへ参加するとともに、地域の情報把握、サロンの立ち上げ等の活動を行っている。第2層生活支援コーディネーターが中心となり、 高齢者が参加しやすい身近な地域での緩やかな集まりを増やす取組 を進めている。	に 等 ③ お / 住 け ④ ま い る 地 い 会 地 域 ・ 域 包 括 生 共 括 活 生 ケ 支 社 ア 援			●	●	
東 部 保 健 所 福 山 支 所	福山市	・ WEBサイト「福山市認知症ナビ」 掲載コンテンツは、認知症チェック、認知症の本人や家族、支える人の声、症状や介護者の対応のポイント、認知症に関するイベント・講座等。	る ケ ④ 地 ア 地 域 共 お 包 括 生 け 括				●	
	府中市	・ 「府中市通いの場ガイドブック」の作成 では、子どもから高齢者までの幅広い世代の健康づくりを推進できるようサロン等も掲載するなどの工夫を行った。 ・令和6年度に、サロンへ「これから手帳」など、出前講座でACPの普及啓発を行った。 ・ 民間事業者と見守り協定締結44箇所と連携した高齢者の見守りへの取組を実施 している。元々、企業の認知症サポーター養成講座を力を入れていた経緯もあり、多くの企業から、市や包括へ情報提供がある。 ・ 認知症月間に、地域の方と一緒にイベントを実施 しており、今年度はウォーキング・講演会・パネル展を行う予定。	ケ 援 ③ / ① ア 等 住 ② 保 共 に / ま 医 健 生 お ④ い 療 ・ 社 け 地 ・ 会 る 域 生 介 護 予 地 包 括 支 / 防	●	●	●	●	
	神石高原町	・移動支援の取組 令和5年度から実施している 移動支援事業が、令和6年度にモデル事業を実施し、令和7年度から本格実施 している。タクシー会社の人手不足がありタクシー利用者は減少しているが、参加者同士の乗り合わせで対応できている。今後は、本格実施後の効果検証の検討、全数把握による地域のニーズの確認等を実施していく予定。 ・実態把握調査 サービスを使ってない人を対象に、全戸訪問し、個別のフレイル・認知症・後期高齢者チェック等を行い、必要な支援の実施及び地域資源（通いの場・サービス等）への繋いでいる。 また、緊急連絡先（遠方の親族等）を確認し、何かあった際の連絡体制を確立している。 ・生活支援に関する地域資源情報の更新 「くらしのお助け帳・見守りガイド」を活用しており、お店の情報（辞める等）や、困りごとがあれば連絡が入るため、宅配の一覧などを令和6年度から令和7年度で更新している。 生活支援コーディネーターが、すべてのお店を周り、店主の顔写真の撮影を行い、写真付きで作成 している。高齢者のいる世帯に配布できるよう検討中。今年度中に作成予定。 ・健康講座の実施 令和7年度から2年かけて、フレイル予防、認知症予防、オーラルフレイル予防、ACPなどの健康講座を健康衛生課が実施する。	等 ① / 保 ④ 健 地 ・ 域 介 護 包 括 予 ケ 防 ア / ③ に お 住 け ま い る 地 ・ 域 生 共 活 生 支 社 援	●		●	●	
北 部 保 健 所	三次市	・65歳以上のひとり暮らしの高齢者等へ緊急連絡票と筒状の専用プラスチック容器を配付し、 緊急時の連絡体制の強化を図る「いのちのバトン（緊急連絡票事業）」を市内全域で展開 している。 対象者は、緊急連絡先やかかりつけ医、主な持病やいつも飲んでいる薬等を記入した緊急連絡票を専用容器に入れて、冷蔵庫の分かりやすい場所に設置する。 緊急時、救急隊員や対応医療機関が緊急連絡票に記載された連絡先に連絡を取り、基礎疾患や内服薬を把握することができ、迅速かつ適切な対応の強化を図っている。	② 医 療 ・ 介 護		●			
	庄原市	・ あつまろカルタ 市担当者と市地域ケア推進会議地域部会ワーキング委員が協力してカルタを作成。貸し出しを行い、地域の集まり場の魅力を伝え、参加を促している。 ・ 移動支援：高野「おでかけわごん」 高野町と奥出雲町を長年運行した路線バスが廃止された後、市が地元事業者に委託して運行する乗り合いタクシー。地元自治振興区役員や民生委員児童委員でつくる「なんずかんづつながる会」が約1年半にわたるニーズ調査や議論を踏まえ、市に改善を提案し、過当たりの運行回数やダイヤを一新した後、利用者が増加。 地元自治振興区のデイホーム事業の送迎に取り入れ、高野小学校も郊外活動で利用。 地域ぐるみで定着を図る取り組みを行い、デイホームの利用促進にもつながっている。	① 住 ま い ・ 保 健 ・ 介 護 予 防 / ③ 生 活 支 援 等	●		●		
当 課	広島市	・ 高齢・障害・こどもなどに関する地域の多様な社会資源の情報を一元管理し、インターネット上で市民や支援関係機関等に公開するシステム「ひろしまcocoサーチ～ひろしま地域社会資源検索サイト～」を導入 した。社会資源の種別ごとに更新頻度を定め、各所管課において更新作業を行っている。	② 介 護 ・ 医 療 ・		●			